



マーシャル方面遺族会
 (旧クエゼリン方面戦没者遺族会)
 郵便番号 154
 世田谷区野沢 3-11-3
 電話 東京 (421) 3614
 振替口座東京 93487番
 編集兼発行人 浮田信家

三十年祭には是非参加しよう

秋田県会員 小室 舜司郎

今年もまた慰霊祭に参加させていただきました。厳粛な慰霊祭に始まり、次いで和やかな総会、終って楽しい一同での会食、そして直会旅行会と、毎年の事ながら、役員の方々に一方ならぬご難儀をかけ唯々深い感謝を申し上げるのみでございます。この度は本会のためわざわざ九州から飛んで来られし戦友の霊を慰めて下さった馬場直人様には心から感謝申し上げます。

また本会のあることを最近知り今回はじめて参加下さった方々のある事には特に心強く感じました。このような会は、発足当時はよくやるが、年経るにつれ、下り坂になるのがよく見る例ですが、本会は十年を経た今日、なお新たに、入会される方々のあることは如何に美しい会であるかとしみじみ感じます。何分お金のかかることです。会費値上げも必要です。未納の方がおるとしたら、早く納めていただきたくいと私も願います。

慰霊祭に参加の方は皆さんお解りですが、皆さんが同じ立場の遺族です。からほほえましい会です。こんなによい会なので心ある多勢の方々には沢山の寄附をよせられています。

来年の30年祭には、みんなで参加して意義深い祭典をいたしましょう。英霊は待っています。参拝して慰め、喜ばせてあげましょう。

(〇〇一三 横手市大沢字沼山)

靖国神社大型献灯



(47・7・14 撮)

目次

- 三十年祭には是非参列しよう 小室舜司郎 (1)
- 顧問石橋湛山先生をいたむ 副会長 浮田 信家 (2)
- 昭和49年2月6日
- 三十年祭行事予定 (2)
- 政府派遣遺骨収集団に同行したい希望者へ……事務局 (3)
- クエゼリン日本人墓地を守る マイロン、アイ、ナカタさん (3)
- 慰霊碑建立に寄せてを讀んで 神奈川 清水 春江 (4)
- 環礁ミレー抄(6)……成宮芳三郎 (4)
- 広橋元君を悼む……竹下 一記 (4)
- 戦地からの便り……吉原 初 (5)
- 今年の直会旅行想い出記 新潟 高林 セキ (5)
- ナウル共和国のごころ…… (7)
- ナウル四高会だより…… (7)
- 本年の慰霊祭・総会報告…… (8)
- 第九期決算報告…… (8)
- 第十期(昭和48年度予算)…… (8)
- 寄附者芳名…… (9)
- 事務局だより…… (12)
- 旧金鶏勲章一時賜金受給者に対する銀杯授与について
- 全国戦没者追悼式に 参列希望の会員へ
- 靖国神社のみたままつりに 大型献灯を奉納
- 副碑奉納準備の工程
- 戦史叢書を手にして 長崎 林 文枝
- クエゼリンのカレンダー 新潟 高林 セキ
- 環礁合併号第二集製作予告
- 写真の引伸について

20年祭に挨拶中の石橋湛山顧問



(39・2・5 九段会館ホールにて)

顧問石橋湛山先生をいたむ

副会長 浮田信家

「我々は伴がクエゼリン島で戦死したと聞いて以来、ただこのままではいかん、彼の戦死によって、どうか日本の再興を図ることに全力を注ぎ、これによって、その霊を慰めてやろうという決心を致し今日に至っております。及ばずながら多少のことはやっておりますが、今後もお、わが国の復興、平和的復興ということに尽力いたしております。是非力を協せ、この方向にお互い努力し、英霊を慰める資と致しましょう」(環礁第一号参照)と結ばれたこ

のご挨拶は今尚私達の耳底に残っています。去る4月25日朝6時のNHKラジオが「長らく病床にあった石橋湛山元首相が今朝5時17分、脳硬塞のため、東京都新宿区の自宅で逝去された。八十八歳であった」と放送されたときは真偽を疑うほど驚きました。本会発足の頃からご健康必ずしも勝れず、時折転地療養され、或は聖路加病院で、病を癒されておられますが、会務のご報告にあがりますと、ご在京のときはいつも、お居間でご夫人と共に会下さいま



右石橋夫妻、中央徳原夫人、左浮田夫婦

した。公のご生涯は、私共知る由もありませんが、今にして昭和21年5月第一次吉田内閣蔵相御就任の頃を顧みると、前記ご挨拶通り、御次男御戦死による日本再興のご決意に貫通あり、偉大さを痛感致します。肉親がご次男和彦様と同じ地域で、同じ頃戦死した事で、連がりを感じ、両親のような甘えさをもつて御夫妻のご指導をいただき些細なことでも、夫人と共に、お聞き下され、質問され、指導して下さいました。四年前徳原夫人来日の折は、梅雨頃で、室内の歩行も苦痛を訴えられる程でしたが、広間に来られ8ミリやスライドを熱心に観賞され、現地の近状もただされ、今後現地に対する本会の心組みをご指導下さいました。時のたつのも忘れ、長時間のお話の

中に、戦歿者を憶うやさしいお気持ちに接しました。石橋顧問の計をご報告し、御生光陰矢の如しとか、タラワ、マキン守備隊玉碎して、今年の十一月二十五日をもって満三十年、クエゼリン、ルオットが玉碎して、明年二月六日をもって満三十年、ブラウン島玉碎して明年2月24日をもって満三十年、そして昭和二十九年2月6日、本会が発足して二十年祭を営んでから満十年立ちました。かねて申上げました三十年祭を行うことになったのです。顧みますと、この10年、皆様方の大変な御協力によってよくもここまで英霊を慰める組織が確立しました。この間厚生省のご協力、日本遺族会はじめ各種団体、都道府県等の並々な御指導によって毎年二百人前後の会員が集って厳粛な慰霊祭を行い総会もかさず、自力で遺骨収集或は現地調査を行い、遂に現地に碑まで建立して英霊の安らかに眠るところをつくりました。そして近く三十年祭を迎えようとしております。

昭和49年2月6日 三十年祭行事予定

- 一、慰霊祭 例年どおり、午前九時受付開始十時昇殿参拝
- 二、靖国神社に対する副碑献納式 靖国神社宝物遺品館にて
- 三、中食―九段会館大食堂
- 四、総会
- 五、九段会館―二階大宴会場 奉納演奏―右に同じ
- 六、お馴染の渡辺はま子さんが戦争中幾多の困難に耐えて各地慰問演奏にゆかれ、身をもって見聞された数々の、戦況記の講演の間に想い出の歌謡又戦後モンテンルパはじめ戦犯の方々の無実の罪を心の底から慰めて下さった数々の想い出と歌謡を心ゆくまで伺い英霊への奉納を御相伴する
- 七、解散
- 八、直会旅行会 神奈川県三浦半島

× ×

政府遺骨収集団に 同行したい方へ

事務局

クエゼリン日本人墓地を守る

マイロン・アイ・ナカタさん

外地戦域に眠る戦死者の遺骨はなるべくその総てを故国に迎えてこれを故山に葬りたいのは全遺族の望むところである。しかし実際問題は、地域があまりに広大のため至難であることは確かである。日本遺族会から頂戴した「日本遺族通信」によると本年度、厚生省は大蔵省に対し、

○遺骨収集費○遺骨収集海外派遣費補助金○慰霊碑建立費委託費を要求した由

この中○はサイパンに建立する費用らしく四は沖縄県に対するもので本会に直接関係ない。

○と○について考えて見たい。

○遺骨収集費は左の四地域

(1) 比 島

(2) 東部ニューギニア

(3) ソロモン群島

(4) 中部太平洋

があげられている。中部太平洋といえは、マインシャル、ギルバートは含まれていると思ふ。

○遺骨収集海外派遣費補助金といふのは昨年度も行われたように国からの遺骨収集団が派遣される時遺族・戦友会・日本遺族会青年部の方々の同行が許されるが、その人達へ補助金が三分の二支給されるというところ

しい。

そこで事務局なりに考えて見た。同方面はあまりにも島が多いので本会派遣員が廻つたのもせいぜい四十数島、政府派遣の場合は十数島にすぎない。そこで今回は更に範圍をひろげて下さる厚生省のお考えと見る。

同地域には小さな島をまわる飛行便はなし、船便と同じである。そこで内地から船を仕立てて、それで各島をまわる以外方法は無い。このためには学校の航海実習船にすがる外手がない。となると学校の教育課程の中で、教務に支障ないときとなる。即ち二期期の終り十月、十一月、十二月頃か。遺骨収集ということになれば二月は必要と思う。練習船だから一〇〇〇トン程度。婦人の方は許されないのではないか。

本年10・11・12月頃約、二ヶ月間、終始船内居住、クエゼリン、ブラウン環礁には寄れない。御婦人は無理と思われる。費用の三分の一は自己負担する。

このような条件で同行希望の方は至急本部に知らせて下さい。厚生省から同行希望者の有無につき問い合わせがあった場合回答の材料にしたいと思ひます。

昭和41年秋オグデン陸軍中佐の相談役となって、米軍主催の日本戦歿戦士慰霊祭を行なって下さったマイロン、中田さん、その翌年本会現地派遣員がクエゼリン環礁を訪れたとき、エビゼ島まで来て、現地の事情を聞かせて下さった中田さん、その後、信仰を主目的に毎年来日する中田さん、こんな中田さんが今年のはじめて奥さんを伴い、四月二十四日夕刻、突如ホテル・ニュー・ジャパン、八二二号室から本会に電話をよこされた。「今、妻と共にホテルにつきました。27日羽田を立ちます」というのであった。早速佐藤、佐竹両幹事に電話しホテルに走った。

あいにく、国鉄はじめホテルに至るまでの大掛りのスト最中、そして石橋顧問の御逝去、歓迎予定の組みようがない。その日はホテルで夕食をしながら談話。25日昼はジョッピングと夕食は佐竹幹事宅ですぎやき。26日は夫妻で友人宅訪問、ご出発の27日は昼から、タクシーを使って、かねて崇敬の的としておられる東郷神社の参拜、明治神宮、代々木競技場跡、NHK新本社、駒沢公園等ドライブした。中田夫人は日本家庭をしらず興味をおもちなのでドライブ後浮田宅で過し、夕食はご希望の蒲焼、お寿司をつついた。元來酒の嫌いな中田さん、宴なかばから素面で籠の鳥、ベニヤの娘、真白

富士の嶺、サクラサクラさては戦友、青葉茂れるなどの音頭をとり合唱の指揮をとった。佐竹さんも安藤さんも私等家族も声をかきり合唱した。時ならず、ませた明治小学校が開校した。

昨年ブラウン島に出張した中田さんが、そのときの写真の裏に「イツモゴブサタシテイマス。日本ガトツテモシタシクナリマス。オモウトアナタタチトデアッタノカイナトキオオモイトツテモタノシクオモイマスオゲンキデ。ナンヨク土人中田」と電報のような仮名の中に漢字六字を混ぜてニューモア一便をよせられた中田さんはよほど幸せそうであった。談笑の中に、日本人墓地の綺麗に掃除されていることを話された。

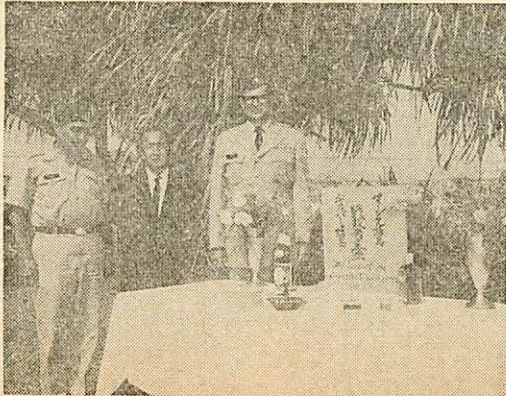
クエゼリン本島を中心とするクエゼリン環礁は所謂極秘地域であり、このため民間会社も一、二社に限定せず、三、四十社に部品を命じて總体の機密暴露を防いでいるが、そうした多数の会社の一つに、司令部から墓地の清掃を命ぜられていたから綺麗なのだといふ。

本会との交渉のはじまった初代のヒーレー司令官、建碑当時自ら埠頭に出て荷受にあたり、建碑作業の指

揮に当たったミラー司令官、そしてそれをうけて、管理、清掃の仕事を軌道にのせて下さったフィッシュバック (Col. Jesse L. Fishback) 現司令官の殉国者に対する厚意には心から感謝の意を捧げたい。「あの戦争で若し日本が勝つて、沖縄にアメリカが戦歿戦士の慰霊碑を建てたとして日本は永代供養料も何もなしでこのような奉仕をつづけて下さるのでしょうか」と複雑な顔色で私に尋ねました。何と答えればよかつたのでしょうか。

お忙しい昼間さんが社長用の大型車でストのため混雑の環状7号線を羽田にいそいで下さいました。国際線ゲートを発進一時間前、中田夫妻の通られるとき今後の墓守をお願いし、お二人の御多幸を祈りました。

英霊位牌の隣にて
右からオグデン中佐、中田さん、ヒーレー司令官



英霊位牌の隣にて
右からオグデン中佐、中田さん、ヒーレー司令官

慰靈碑建立に寄せてを読んで

(環礁14号8頁参照)

神奈川 清水 春江

「十一月になっても、清水中尉は着任されません。……」
礁か十一月二十五日の夜であったと思います。夜半に飛行機の爆音が聞えて来ました。
敵か？
味方か？

間もなくその飛行機は着水して来ました。味方の二式飛行艇でした。暫くすると取次ぎ伝令が
「金子飛曹長、司令がお呼びです」
と陣地迄迎えに来ました。何事かと本部に参りますと司令が
「唯今の飛行艇で清水中尉が着任した……」

と読んで行くうちに過ぎ去った二十七年前の昔を偲んで、流れる涙はとどまることを知りませんでした。当時まだ二十三、四才の、若い、なんにも知らない妻は、夫が、敵上陸の真只中に着任することなど少しも知らずに。再び妻子に会いぬ身と知りながら、ひとこととのおそれらしい態度も見せず、死地におもむいたかと思ふと、万感胸に迫って又新たな涙に暮れたことでした。なぜあのときもつと真剣に神にすがらなかつたかと、自分のおろかさがかくやまれてなりません。
ただ清水中尉とのみありませんが、清水治正のことではなかつた

かと金子様にお聞き下さいませ。その中尉が治正なれば、当時一足か二足あるき始めた子供武千代も大学を出て、只今道路の建設にはげんでおります。これまた二十七年の歳月を経て一児の父親となつて。そしておろかだつた私も、その後美容で身を立て、みんな元気に働いて居りますので金子様どうぞ御休心下さいませよう、御消息ありがとうございます。そして現地慰靈碑の建立にも格別のお力添えを下さいましたとか、厚く御礼申し上げます。
つたない筆をもちえりみませず感謝の意をあらわしたく存じまして、本当にありがとうございます。

妻 清水 春江
逗子市桜山一丁目三一四

環礁ミレー抄 (6)

成宮芳三郎

みち潮の
風に吹かれて
砕けたる
望楼のあと
千鳥集へる

(元66警ミレー島軍医長)

広橋元君を悼む

竹 下 一 記

広橋元君が、タラワの三特根に赴任の途中クエゼリンに立ち寄つたのは、昭和18年のたしか二月か三月であった。
当時そこにいた主計科士官数名で、彼の歓迎会を催したわけだが、それまで内地で燃料関係の仕事をしてきた彼は、艦船は赤腹度に出して浮んでいるだけで行動が出来ないでいる様子などをこまごま語ってくれた。このままでは敗けるよ、敗けるよ。なんとかしなくちゃ。そのときの彼の熱っぽい口調と憂わしげな表情を忘れることが出来ない。戦況は、いまやそこまで来ているのか。そういう事情に暗いわれわれは、ただ無然として聞いているのみであった。
数ヶ月後、第四施設部にいたわたしは、タラワ分遣隊に現金を送る用があり、十円札をビッシリ詰めこんだリンゴ箱をもって、専用の飛行機でタラワに飛んだ。用を済ませ、再び飛び立つまでの若干の、ほんの一時間ほどの余裕をみて、特根の彼を訪ねた。タラワは小さな、円形の島で、全島が赤茶けた砂で覆われ、ポツポツと椰子が生えているだけの、ひどく殺風景で、同じく玉砕したお隣の、マキン島が、こんもりと緑樹に包まれた緑の島であるのと対照的であった。赤道直下の、煮えたぎる

ような炎天の下で大勢の隊員たちが寝づくりの突貫作業をやっていた。彼もすこぶる元気であった。このとき、二人で何を話し合ったか今はまったく思い出せない。
広橋元君、經理学校時代には、十一班でバッテリーを組んだ仲だ。彼はお義理にも上手とは云えない。技術の持主で、わたしの剛球(?)を受けそこねて、胸や顔面で捕球することが多かったが、彼は誰もが敬遠する捕手の役を敢然とみずから買って出たのであった。このバッテリー間の呼吸がうまく合ったためか、たしか三回戦まで勝つ進んだのだ。明るくて、屈託がなく、正義感の強い、いい男であった彼、生きていれざきつと

大をなしたであろう彼、広橋君の霊に対し、心から哀悼の意を捧げたい。
(海軍經理学校第八期補修学生所謂「海軍主計科二年現役士官」今や各界要路の中心人物として活躍の各位が、任官三十年を記念し、海軍勤務中の体験談、戦死者の遺稿等を含めた文集、名付けて「破竹」。千七十頁に亘る大冊であり、内容の一部は本年二月十九日フジテレビによって全国に放送された。故あって同会から本会に御寄贈を受けたが読むうち胸に迫るものがあり本会々員にも御紹介したく、転載のお願いを試みたところ御快諾を得たので、今後数回に亘り、転載させていただきます。
なお「破竹」は市販はされていませんが、会費三千円をもって入会された方にお頒けいただけると。本会事務局で取次いたします)
浮 田



強行上陸のおこなわれたベティ木島の北岸(礁潮がわ)

戦地からの便り

大阪吉原 初

拝啓 残暑尚厳しき折柄その後
変りありませんか。

八月四日附の懐かしき便りに可
愛い清江の写真確かに受取りまし
た。初子はじめ元氣の様子何より
結構な事と存じます。

僕も御蔭様にて当地の氣候にも
馴れ益々元氣に御奉公致して居り
ますから安心下さい。

当地も大分氣候もよくなり、こ
れからは幾分過しよくなりませす。

先般依頼した「ボンホリン」は
あんなに沢山は入用でなかったの
ですが、手紙不着の場合を慮って
何度も手紙を出したのです。お蔭
様で水虫もすっかり全治致しまし
た。通知だけでまだ受取っては居
りませんが、次の分は幸い不要に
なりましたから心配しないように
願います。

次に清江も見違える程大きくな
りましたね。僕が出るときはまだ
あんなに小さかったのに、子供の
成長は早いもんだね。お前にも随
分苦労をかけすまいね。病氣さ
せないように又将来有為な人とな
るよう今から躰け教育を充分にす
るよう頼む。

初子も清江も楽しみにして居た
だらうが、蜜柑狩に行く時期まで
には帰れないかも知れません。

もうこの手紙がつく頃には初秋
の風に渡鳥も南の島に帰ってゆく
だらう。あの酷熱の桎梏より解放
された人達も凛然として報国の覚

悟を堅めて居るだらうし、体力練
成に野に山にハイキングも盛んに
行われて居るだらう。楽しかった
去年の三田行も早や一年前の事に
なってしまった。

想い出の箕面の楓も今年も変ら
ず燃えるような色に彩って秋を迎
えて居ることだらう。斯う書いて
行けば思い出は次から次へと尽き
ない。

良い時期に俗塵を去って、明日
への英気を養うのも良いと思う。

お母様もお元氣の由何よりで
す。決戦下特に身体に注意して病
気しないように頑張ってください。

追伸
八月十三日に現在高証明と同時
に住所変更をして家の方に届くよ
うに郵便局へ通帳を差出しておき
ましたから受取ってください。

○
十月十九日附
暫くでした。度々便り有難う。

八月二十一日の手紙と雑誌同時に
落手致しました。先の書留も薬も
確かに受取りました。然し第三回
の小包は未だ受取って居りませ
ん。お蔭で水虫もすっかり良くな
りました。其後も至極元氣で益々
張切って御奉公致しております。

家内一同相変わらず元氣で御過しの
由何よりよろこばしい事と存じま
す。清江も見違える様に大きくな
りましたね。子供の成長の速いの
には驚きました。去年の今日だっ
たね。未だあんなに小さかったの
うね。随分可愛くなって居る事だろ
うね。早一年は夢のように過ぎて
行ったが、まだいつ帰れるか判り
ません。この秋の田舎行もだめだ
らう。然しお正月までには間に合

うだらう。もう朝夕は寒さを感じ
る時候になって居ることではし
ょう。あの可憐なコスモスの花も咲
いているだらう。あの味覚をそそ
る松茸も今が盛りだらう。ふぐち
りで一杯悪くはないだらう。この
頃は食事が何よりの楽しみになっ
てしまった。今日は忙がしいの
で、この位にして置く。

十二月二十八日

拝啓 暫く御無沙汰致しまし
た。その後家内一同様にはお変り
ありませんか。もう時候もよくな
ったことではししょう。当地で澄み切
った月を眺めているとあの美くし
い中秋の月を想い出して過ぎし日
の追憶に耽っています。

味覚をそそる松茸も今が盛りの
ことではししょう。可憐なコスモス
も咲いて居ることだらう。先日井
上の姉上様より詳細な近況と激励
の御便りを頂戴いたしました。道
路の処々に退避所が設けられて居
るとか女子防空訓練が秩序整然と
して実施されているとか、一億総
進軍の決意か!! 情熱が、否総て
が勝抜く為に捧げられて居る由意
を強く致して居ります。

私も出発以来お蔭様にて至極順
健早一ヶ年も過ぎました。当地の
生活は一つの生死観を与え使命に
殉ずる者の喜びを教えて呉れまし
た。けれども同時に偉大なる祖国
の安否を担う一人として余りにも
小さな自分を発見致しました。熾
烈な愛国心と強靱な軍人精神を体
して海に陸に、肉体を赤銅色に鍛
え、玉の緒の絶る一瞬まで与えら
れた自己の使命に努力する覚悟で
居ります。総てのものが不自由と
存じますが、困苦欠乏に耐えて、

銃後の務を充分に果して下さるよ
うお願い致します。
何といっても勝抜くためには、
身体が第一です。向寒の折御身ご
自愛專一を祈ります。

昭和48年直会旅行の想い出

新潟 高林 七 七

皆様によろしく御伝言下さい。
追伸
十月二十四日附にて軍事為替に
て百円送金致しましたから御受取
下さい。

(前文略) 続いていよいよ直会
旅行への出発です。英靈のご加護
とでも申すのでしょうか。毎年の
事乍ら天候に恵まれ青空の東京を
後に、残る会員の方々に見送ら
れ、バスは午後一時五分九段会館
前を出発しました。一路伊豆伊東
温泉へ……。車内での近くの席の
方々は埼玉県の藤田さん、広島県
の浦手さん、秋田県の小室舜司郎
様でした。浦手さん、小室さん共
に環礁で度々記事を拝見致してお
ります。

北の国からまた南から、今まで
一面識もなかった方々であるの
に、何か共通した縁の糸に結ばれ
て居るかの様に、とても初対面
とは思えぬ親近感があつて心の底
から語り合えるのも本会ならではの
美点だと思います。

小室さんからのお話は、36才に
して入隊、五年余りも戦地で過さ
れたとの由。老兵の御身のご苦労
が察せられ、戦線と銃後、共に尽
したあの頃のことを想い出されま
した。

又私等女性、同じ境遇にあるも
の同志、同じバスの中で語り合え
るなどとても素晴らしい事だと思



暖香園玄園の記念撮影



のを忘れ本当に楽しく過ごさせて頂きました。
翌七日は早朝湯に浸りながら「波浮の港」の唄など口ずさみつつともいあらわせないいい気分のひとつときでした。

一同揃っての朝食のときも、昨夜の楽しい思い出話を花を咲かせましたが席上、昨夜一同宴会場で撮った記念写真を受けとり、八時半昨日と同じバスの人となりました。間もなく、やがて熱海梅園に到着。

空は青く澄み渡り、ぼかぼかと暖かく、ここでも英霊のお導きか、役員方々日頃のご精進の良さの現われと感謝いたしました。

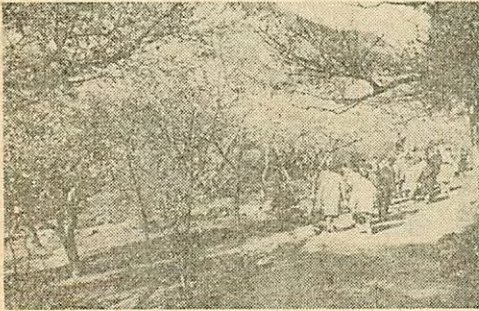
梅園では紅・白の花が満開、「うぐいすの葉風に匂ふ梅ヶ香や」の風情がありました。花を染しみ、香に酔う如く、舞い散る花びらの下をミニスカートやパンタロンの娘さんが、肩を寄り添え、

手に手を取り、ハイヒールの音もコッソ！コッソ！と軽く楽しんで行き交う若人たちを振り返り、自分も霊との在りし日の想出し、四十年前若返ったような気分でした。

ついでバスは湯の町、恋の町を後に十国峠へ向いました。熱海スカイラインを登り、絵に書いたような熱海の絶景を眼下に見、椿の大島も今日はハッキリと浮んで見えました。

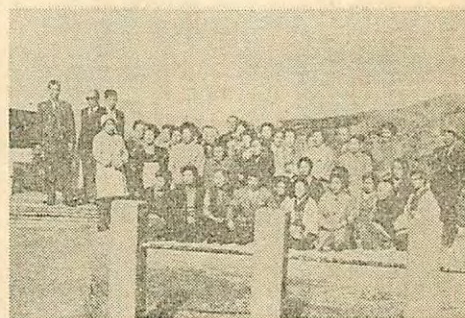
やがて十国峠頂上に到着。雲一つない青空に、気高く聳える雄大な富士山を仰ぎ見た時ふと頭の中に浮んできました。

想えば昨年九月秋分の日NHK総合テレビで「大統領のオルゴール」というテーマで歌手の渡辺はま子さんが出演したときの一場面でした。渡辺さんが親友から贈られた富士山の絵の書かれたオルゴールが頭の中に浮んだのです。



熱海梅林にて

富士を背に一同にて



渡辺さんはこのオルゴールをフィリップンのキノ大統領に贈ったが、絵をみて「ニホンノフジヤマフジヤマ」と大変喜ばれ、更にふたをあげたところ、流れてたメロデーは死刑囚の作った歌として知る人も多い「ああモンテンパの夜は更けて」であった。曲をきき、それが、死刑囚の作ったものと知った大統領は、その場で、死刑囚の釈放を約束したという筋でしたが、それが記憶に残っていました。

再び富士の霊峰を仰ぎ見たとき戦犯死された十四人の方々に合掌ご冥福をお祈りいたしました。やがてバスは十国峠から芦の湖へと下り、箱根関所跡を見て、元箱根のレストセンターにつきましました。

ここで箱根独特の鍋物料理に舌鼓を打ちつつ、すっかり仲良となり、家庭的雰囲気ひたり乍らの

中食もこれ又楽しい思い出の一つとなりました。

又バスの人となり芦の湖を左に眺め乍ら大涌谷自然科学館へ。中でも自然科学館の立派な施設には驚きました。佐藤幹事さんの元部下菅啓司さんの蘊蓄たっぷり、長時間に亘るご説明は、箱根のすべてがわかり、本当によい勉強になりました。又地の底から吹き上る硫黄の白煙は凄じいと云うより外ありませんでした。この熱泉でゆでた黒卵は、一個食べれば七年寿命が伸びるとあって、全員車中で頂戴しましたが、この楽しい旅行会に参加して十年のびた寿命を加え、十七年も生き伸びた事は厚く御礼申し上げ次第でございます。ここからバスは箱根の山をゆられゆられて、富士山も見えつ隠れつだんだん遠ざかって行きました。ガイドさんの若々しい歌声に聞き惚れ乍ら自己紹介やら懐

しい軍歌やお国訛の言葉、方言などで爆笑が溢れましたが、一方お訣れが近づく切ない思いも感じました。

「逢えば別れがこんなに辛い」などとチョッピリ、センチな気もちになり、やがて小田原駅では数人の方達とお訣れし「来年も又お達者でー」と一言を残し一路東京へ。

夢のような心地で高速道路を走り、やがて都心に入り、つい先程通った箱根街道の杉並木とはうらはらにビルや林或はビルの谷間を通り抜け、車・車・車の洪水を泳ぎ抜けて九段会館に着きました。

二十年祭には息子と宿泊又四十五年には息子の挙式に主人の遺影と並んで参列した思い出の会館で、また来年もお世話になるのだと思つては年中お世話の方々とお別れ。「お世話になりました」、「有難うございました」、「また来年もよろしくお願ひいたします」と尽きぬ名残に手を振り振り、バスが走れば、靖国の霊が呼んでいるかのような心地して、心は靖国のやしろに向う。「お蔭様で今年も無事、楽しい旅をさせて貰いました。来年もまたきつと参ります」と感謝の気持ち報告しました。

慰霊祭も無事終了、最後の方々とのお別れも、しっかりと手を握り、お達者で又来年もと、北へ南へと別れてゆきました。こんなに楽しい旅行ができたのも、本部役員の方々のお蔭でございます。ほんとうに、ほんとうにありがとうございます。



鍋料理に舌鼓うつ

「ナウル」共和国のこのころ

赤道直下、ソロモン群島。広さが、伊豆大島の4、首を少し傾けたジャガイモの形をした島がある。ナウル島。すなわち「ナウル共和国」である。

世界的なリン鉱石の産地で、長く英連邦が信託統治していたが、五年前に独立した。リン鉱石の年間純益が約七十億円もある。人口は六千余人。三千余のナウル人の外、ギルバート、マーシャルなど中部太平洋の島じまから来た人、中国人、オーストラリアなどの白人がいるが、リン鉱石のおかげで税金は一円もなし。すこし働いただけで楽に暮せる。金があって、ヒマがある。

そんな国の「国営航空」が昨年未、鹿兒島との間に定期航路を開いた。先月(註47年12月のこと)二十一日朝、鹿兒島を飛立った一番機の乗客は、われわれ(記者・カメラマン)二人だけ。情緒豊かなナウル衣装で、三人のステューデントが乗務していたが、三人共ハダシだった。

島の東側に、ただ一つの宿泊施設、国営メンネン・ホテルがある。砂浜につづく食堂、バー。部屋は二階にツインベットが二十余。冷房機はない。天井に下がる扇風機が一日中うる。

タクシーやレンタカーがないの困った。島の人たちは自動車や單車をたっぷり持っているのだ。そんな商売は成り立たないの。豪州製を主に、島には二千台の

四輪車、五百台のオートバイがあると推定されている。実数はわからない。ナンバー登録はするのだが、税金がかからないのだから、廃車のとき返還手続きをとらず、従って幽霊ナンバーが存在するのだ。道わきにナンバーの車が何台も捨てられていた。それにしても、四輪車、單車あわせると、一戸に一台半くらいの見当になるという。



プアダ湖

子育て競争もいま、ナウルで大きな話題の一つである。戦後、子どもを産んだ最多記録は十七人だった。ところが二人が死んでしまった。十七人というのには容易に破れそうにない、と半ばあきらめていた後継者がハッスルした。五十二才になるA夫人は、タイ

記録の十五人の子福者。あと一人産めばタイトルがとれる、とダンナさんを励ますが、もうおトシのことゆえ、これがままならぬらしい。

この国では子ども二人目までは、それぞれ月に八百円、三人目から千二百円の児童手当が中学卒業まで支給される。仮に、そうした子どもが八人いれば、手当てだけで毎月八千八百円。教育費は一切無料だから、これは生活費として使えるわけだ。子どもがふえて家が手狭になると、政府が建増ししてくる。

もつとも、この国の政府当局はそういつまでも気楽ではいられない。リン鉱石が底をつき始めたのである。年二百万トンずつ掘り続けると、もう二十五年間しつかり続けない。他に産業は皆無。耕作さえゼロ。食べ物、衣類すべて輸入品で、生産物といえばバターくらいのもの。転換するとすれば、観光か漁業だ。エア・ナウルの鹿兒島乗入れも、目標はそこにあった。日本と接近し、漁業技術を吸収し、苦い人たを島に呼びこみたい。

政府の建物は飛行場わきに固まっている。その庭の記念碑にいわく。「この銘は一九四二年から四五年にかけて、日本軍がナウル占領中、その命を失ったナウル、ギルバート、エリス島民と中国人の忠誠、勇武を賛えるものである」

太平洋戦争で、日本海軍が占領した。この上強制労働させられるため千二百人の島民を、同じく占領していた近くのトラック島に移した。だが人びとの心に、その傷跡はない。ばかりか、親しみさえ見

せ、われわれは数日で「名を知らぬ友人」をたくさんつくった。常夏の国、フィッシングを楽しみに……と押しかけるばかりが能ではない。日本人は、この国に何

「ナウル」島四高会だより

毎年三月第一日曜日に行われる同会も今年は第十八回を迎へることになりました。百七十名の会員ですが、毎年幹事さんから他界された方々のお名前を承ることは心淋しく感じます。こうした方々の戦時中島民に与えられた業績があるからこそ、独立とともに、日本を慕う結果となったことを想い、お集りの生存会員の皆様、そして当時この島に骨を埋められた英霊各位に、心からのご冥福を祈りたい気で胸いっぱいでした。

今年には新東京空港に近い千葉県成田市において三月四日(日)に行われました。開会前思い思いに成田山新勝寺にお参りして交通安全や家内安全のお護りをうけ、更に登って折柄満開の梅林を訪れ、午後一時、会場に用意された大野旅館に集まりました。

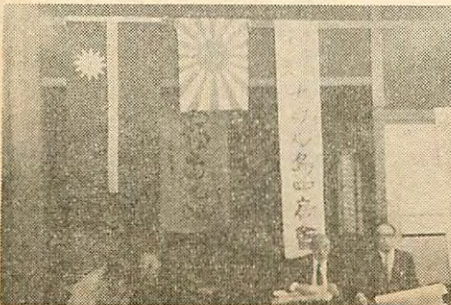
八日市場から見えた松田憲様が昨年大統領の見えたとき案内して食事を共にし旧交をあためたためり機会あったらナウルをおとづれたらという話がもち上りました。

本誌15号でナウル共和国領事館の開設を報じ又17号で航空便の開通のせ、本号では、朝日新聞による同島の近況を転載させていただきます。今日の雰囲気も行け

してあげられるかを考えてほしい。

本年1月9日朝日新聞夕刊
「税金のない国」より
文 後藤竜介編集委員

るようになったらなるべく早く往きたいものだとの期待が圧倒的でした。私達もあの公書の全くない南半球の夢のような島にいつてジョルダンさんやジョンウイリスさんにお目にかかりたいと、そのときも一緒にさせていたくださうお願いして、本会の発展をお祈りしました。有志の方は更に一泊、翌日は近郊名所、旧跡を探ねる予定のようでしたが月曜の用事のため夕方失礼しました。明年は靖国神社参拝を目的とし東京で行う由承りました。



四高会旗、軍艦旗、ナウル国旗

本年度慰霊祭・定期総会と

直会旅行実施報告

一、前夜の九段会館宿泊

例年通り五日から七日に至る九段会館宿泊幹旋を致しましたが、本年は延26人でした。大したお世話ができませんのに、過分のご満足の御礼をいわれ恐縮しました。

二、慰霊祭

今年も受付開始の定刻九時前からポツポツお集りになり、寒い参集所でお休み願いましたが、神社のご好意で暖房を入れて下さってから暖まり三々五々一年目のご挨拶で賑わいました。

今年も来賓、会員合わせて二百名、11時神官に導かれ拜殿で修祓を受け、本殿に昇りました。例年どおり敬肅な慰霊祭でした。

三、定期総会

九段会館の大食堂で行いました。第九期決算報告と第十期(昭和48年度)予算を印刷物に配布し、詳細に亘り説明しました。

昭和48年度事業計画としては、例年どおりの外、明年三十年祭を行うため、環礁18号は5月前後に発行し、19号を9月頃に発行することとして予算を計上したこと、副碑製作にとりかかること等を説明、原案どおり可決されました。

この外会員中から「従来毎年会費値上げするよう提案するが採択されない。本部は相当無理した運

営をやっていると考えられるので、是非値上げに踏みきるよう」提案がありました。

諸物価値上りは事実であり又三十年祭を迎え副碑製作その他支出増も考えられるので本部としてはこのご提案を有難く承けることとし、実施の時機を本部に一任していただくことで意見の一致を見、総会を了えました。

四、直会旅行

本年も大型バス一台を使用し、二つの空席がある程度で、予定の行動を無事終了しました。六日九段会館出発から七日同館帰着まではこれに参加された新潟県高林セキ様の手記をいただきましたので原文のまま本誌に掲載し報告にかえます。なお直会旅行には本会基金を使用しないことは例年のとおり乍ら本年も残金四、〇六九円は寄附として本会に頂戴いたしましたことを附記致します。

ミレー抄 (7)

黒字める

ねずみ馳せゆく

滑走路

わざとがましき

所作で兵追ふ

第九期決算報告書

(自昭和47年1月1日 至昭和47年12月31日)

収入の部

科 目	金額(円)
前期より繰越金	663,093
会費収入	
(47年度以前分)	512,000
(48年度分預り)	191,000
(49年度分以降預り)	27,500
寄附金等	935,652
受取利息	91,954
預り金(戦史、旅行分等)	212,390
雑収入	24,580
計	2,658,169

財産目録

摘 要	金額(円)
現金	57,133
普通預金	18,430
普通預金	345,583
定期預金	1,500,000
定期預金	750,000
振替貯金	25,709
負債	0
合計 正味財産(昭和47年12月31日現在)	2,696,855

収入の部

科 目	予算(円)
昭和47年度よりの繰越金	1,196,855
昭和48年度分会費収入	400,000
寄附金等	1,000,000
受取利息	90,000
雑収入	20,000
合 計	2,706,855

支出の部

科 目	金額(円)
慰 霊 費	36,000
運 営 費	768,412
刊 行 費	347,090
印 刷 費	7,255
通 信 費	40,381
事務所借用費	132,921
振替払込料	31,550
事務用品費	3,340
会議費	3,000
雑費	12,865
予備費	0
仮受金(預り金)返済	78,500
次期へ繰越金	1,196,855
計	2,658,169

正味財産の仕訳

現地慰霊碑維持基金特別勘定	1,500,000
次期へ繰越	1,196,855
計	2,696,855

以上監事の監査を経て御報告致します

昭和48年2月6日

支出の部

科 目	予算(円)
慰 霊 費	50,000
運 営 費	900,000
刊 行 費	500,000
印 刷 費	30,000
通 信 費	50,000
事務所借用費	160,000
振替払込料	40,000
事務用品費	30,000
会議費	30,000
雑費	4,465
副碑製作費	550,000
予備費	150,000
預り金返済	212,390
合 計	2,706,855

◇大分府		◇兵庫県		◇奈良県		◇和歌山県		◇鳥取県		◇鳥根県		◇岡山県		◇広島県	
五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	八〇〇〇〇	五〇〇〇〇	三五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	五〇〇〇〇	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇〇〇	二五〇〇〇
母	妻	父	母	妻	妻	妻	妻	妻	妹	妻	妻	妻	母	母	妻
高崎	山根	瀬川	清水	谷口	谷口	福井	山中	井上	門脇	園山	木村	下地	金崎	宇山	浦手
シズ	きく	英治	たい	スエ	スエ	榮子	フジ	照美	財重	和子	久子	政子	イマ代	アサ	ハル
一五〇〇〇	一〇〇〇〇	三〇〇〇〇	二五〇〇〇	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇	二一三〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	五〇〇〇〇	二五〇〇〇
母	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	母	母	母	妻	母	母	父	妻
植田	久保	小林	松本	石田	川西	大野	寺内	藤本	小住	内富	原田	隣	廣田	嶋田	兄
操	ミキエ	アキ子	タカミ	史郎	ユキミ	ヤチヨ	米一	カメヨ	竜	つよ	ミト	フシノ	通男	チヨ	英男
一五〇〇〇	一〇〇〇〇	六三〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇〇〇	三〇〇〇	二五〇〇〇	二五〇〇〇	二五〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇	一〇〇〇〇〇
父	母	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	母	母	母	母	父	妻
新谷	長岡	小西	馬場	福岡	山本	渡辺	松友	馬場	田中	田中	西原	徳王	深川	西田	甲斐
房男	楽三	アキヨ	ミネ子	忠幸	峯幸	義雄	都	福義	百合	百合	康雄	好子	芙蓉	エノ	光子
一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
父	母	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
金子	酒井	宮崎	松尾	安達	齊藤	前田	前原	横山	太田	鹿田	橋本	山下	福田	林	内田
セノ	平六	ツヨ	フサ	ツヨ	ミ子	フサ	美子	アヤ子	熊市	ミサカ	太郎	音和	音和	エキ	オサエ
五〇〇〇	二五〇〇〇	一五〇〇〇	三〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
父	母	母	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
岩切	杉田	土工	出花	徳重	和田	川畑	神川	原田	法元	有留	田中	西方	野平	蜂須賀	松野
利平	よしの	あぐり	池栄	ミツ子	芳久	ツルエ	カツ	イト	クニ	ツル	清助	ヨネ	ヨネ	俊	下イエ
五〇〇〇	二五〇〇〇	一五〇〇〇	二五〇〇〇	一五〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇
父	母	母	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻	妻
石原	宮城	宮城	神谷	金城	名嘉山	浦崎	上原	金城	保二	前号	枝光	芳名	中兵	庫田	の
キク	幸子	ニル	栄子	全財	キヨ	ナエ	ナエ	ナエ	ナエ	ナエ	ナエ	ナエ	ナエ	ナエ	ナエ
三〇〇〇〇	二〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇	一〇〇〇〇

訂正
前号寄附者芳名中兵庫県の五〇〇枝光たいは五〇〇〇の誤りです謹んで訂正いたします。



事務局だより

○旧金鶏勳章一時賜金受給者に 対する銀杯授与について

このことは昨年七月の環礁16号の事務局だよりでお知らせし、数人の会員から、それについての質問があった。

これについて、厚生省援護局の業務第二課長(本会篤志会員横溝幸四郎様)の詳細の説明をいただいたのでこれを本号に掲げます。該当すると思う方は、これをご覧になって、なお不審の方は、本会にお申越し下さい。

かつての金鶏勳章を叙賜された者で、併せて勳章年金を支給された者(満州事変以前の関係者)には、昭和四十二年の法律で、一律に十万円の一時金が支給されました。

ところが金鶏勳章は叙賜されたが、勳章年金を支給されず一時金だけ支給された者にも、前記年金受給者との均衡を図るため、昨年六月に、内閣総理大臣から銀杯が贈られることになりました。これについての事務は内閣総理大臣官房管理室というところで行われます。昨年春のことについて各都道府県に説明会があつてそこで詳しく説明が行われました。説明会のとぎの説明事項をお知らせします。

一、対象者
これによって銀杯を授与される者は、昭和十五年四月二十九日付

で金鶏勳章を叙賜され、併せて一時賜金(賜金国庫債券)を交付された現在生存中のものです。ただし、このような人で、その人が、昭和38年4月1日以後に死亡したときはその人の遺族も対象とされ銀杯が受けられます。(富山県黄部市の松田ふじえ様、長崎県松浦市の大石クマ様お二人とも御子息の御死亡が、38年4月より前ですので受けることができなと思います)

二、受領する物件
銀杯(書状つき)
三、申請手続
申告書の用紙は市区町村役場に準備されておりますので、そこでお尋ねになって下さい。

○この仕事は昨47年9月頃からはじめておりますが、概ね二年位で終了する由、従つて、明49年9月頃終了の予定で、
○全国戦死者追悼式に
参加希望の会員へ
毎年八月十五日には、東京都千代田北の丸公園日本武道館(九段会館・靖国神社何れからでも約五〇〇米)において、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰いで行われております。多分今年も、従来どおり、取り行われせられると存じます。毎年本会にも数名の遺族にこの式典へのご案内状を頂いております。今迄参列の機会がなかった方で、御希望の方がございましたら、至急本部までお申込み下さい。

○靖国神社のみたままつりに
大型献灯を奉納
今年も靖国神社では七月十三日から十六日まで、みたままつりが行われます。この間毎日御祭神を

お慰めする祭事が厳かに取行われます。そして日暮になりますと、社頭には遺族、崇敬者或は戦友から奉納した大小数千個の大小数千の献灯又各界著名の方々御揮毫の数百吊の懸げんぼりに一斉に点火され、東京の夜空にあかかと輝いて祭神をお慰めしてあります。毎年この日お参りする度に「マーシャル方面遺族会のつづく限り、毎年こうしてお慰めをあげに参ります。どうか安らかにお眠り下さい」と拝礼します。

昨年是小雨が静かに降っていました。能楽堂では狂言の最中では大村益次郎の銅像の廻りでは素足に下駄ばきの浴衣の奥さんや、威勢のいい神田の若い衆、ミニスカートのお嬢さん、袴をつけた有鬚の紳士などなど盆踊り。祭神のはほ笑みが見えて胸がつまりました。巻頭の写真は、その日雨の中らとりました。

○副碑奉納の準備の工程
お蔭様で各都道府県からの銘石は総て集まりました。特に京都府と兵庫県では、会員世話人の方のご尽力により、知事様から頂戴いたしました。とりまじめ先日内海第一石材工業株式会社社長にお届けしました。一方靖国神社池田権管司様からは、本会からの奉納趣旨を御了解下され「副碑を当神社に御奉納の趣有難く受納致し度く存じます」との事、既に位置も内定の由承りました。会員皆様のご熱心なご希望が達せられるのも、あとしばらくと思ひます。

○戦史叢書を手にして
(一)
長崎 林 文枝

先日来戦史の配布に關しまして色々御配慮賜り誠に有難うございました。その節海軍作戦(2)の方が未着と申し上げましたが、昨日帰宅してみましたら真新しい小包が届いておりました。早速昨夜は添付の地図を拝見致しましたが、胸の熱くなる思いでございました。これからゆっくり拝見させていただきます。ほんとに有難うございました。

戦史叢書中部太平洋海軍作戦(2) 新潟 高林 セキ
ありがとうございました。マーシャル諸島の玉砕、特にクエゼリン島の戦闘、悪戦苦闘の記録、繰り返し、繰り返し、拝読致しております。何かひしひしと胸に迫ります。「本書なくして良書なし」とつくづく思ひました。

○クエゼリンのカレンダー
今年も徳原さんからクエゼリンのカレンダーが五十部送られて来ました。船便のため大変日が遅れましたが希望の方にはお送りします。価格は一部一ドルですので、クエゼリンからの送料と内地間送料を含み四百円です。

挿絵一月クエゼリン本島鳥図
二月マーシャル本島のカス
三月優しい海鳥
四月カントリークラブ
五月カルロス島(クエゼリン本島の北西八連)
六月日没と漁船
七月カルロス島風景
八月ルオット島のクラブ
九月海底生物

一〇月小船から見た夕焼
十一月本島東側の珊瑚礁
十二月クエゼリン本島西隣のコーラル島浜から本島夜景
祝祭日は米国のものです。

○環礁合併号第二集製作予告
本年の挿絵は風景が主のようです。明年の三十年祭に対する準備等のため、本年は18号の後9月頃に19号を発行の予定に事務をすすめております。このため明49年1月1日発行の環礁は第20号となりまして11号から20号までをまとめて合併号第二集をつくる予定にしております。

つきましては準備の都合もありませんので合併号御希望の方には20号はお送りせず合併本(一部五〇円送料別)をお届けしようと思ひます。準備の都合がありますので六月中にお申込み下さい、お申込みのあった方だけに準備いたします。

○写真の引伸について
環礁に掲載した写真はすべてネガ(原版)を本部に保管してあります。引伸してはつきりしたのがほしい或はカラーのものが欲しいという方はいつでも結構です。本部にご注文下さい。

本 部
郵便番号一五四
東京都世田谷区野沢
三丁目十一番三号
マーシャル方面遺族会
電話(東京)三三二六四番